

令和2年度第1回伊賀地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和2年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 伊賀地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・ P 2
- 【資料1】これまでの協議について・・・・・・・・・・ P 3
- 【資料2】令和元年度の協議について・・・・・・・・・・ P 5
- 【資料3】学校別活性化協議会の取組状況(あけぼの学園高等学校)・・・ P 7
- 【資料4①】伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況(3力年比較)・・・ P 9
- 【資料4②】伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況(令和2年3月卒)・・・ P 10
- 【資料4③】伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況の推移・・・・・・・・ P 11
- 【資料5】伊賀地域の県立高等学校(全日制)の
令和2年度入学者選抜の状況・・・・・・・・ P 13
- 【資料6】各高等学校の入学者の出身中学校と卒業者の進路状況・・・ P 14
- 【資料7】伊賀地域の県立高等学校への進学状況の推移
【北部・南部別】・・・・・・・・ P 15
- 【資料8①】伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)・・・ P 16
- 【資料8②】伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)
【北部・南部別】・・・・・・・・ P 17
- 【資料9】令和2年度の協議について・・・・・・・・・・ P 18
- 【別冊資料】高校教育を取り巻く社会情勢の変化

令和2年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員名簿

区 分	所 属 等	氏 名	
1 学識経験者 (1名)	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 准教授	かとう たかや 加藤 貴也	継続
2	上野都市ガス株式会社 取締役業務部長	にし がき ひろ なお 西 垣 浩 尚	継続
3 有識者 (4名)	中外医薬生産株式会社 取締役管理本部長	おか もり ひさ よし 岡 森 久 剛	継続
4	亀井商事	なか たに ゆき お 中 谷 幸 雄	継続
5	有限会社テレマーク	さくら い かつ いち 櫻 井 勝 一	継続
6	伊賀市PTA連合会 会長 (伊賀市立大山田中学校PTA)	にし おか ひろ し 西 岡 浩 司	R2新
7	名張市PTA連合会 会長 (名張市立箕曲小学校PTA)	ふじ はら しん や 藤 原 真 也	R2新
8 PTA関係者 (5名)	伊賀地区県立学校PTA協議会 会長 (上野高等学校PTA会長)	まつ もと まさ たか 松 本 誠 太	R2新
9	伊賀市内県立学校PTA 代表 (あけぼの学園高等学校PTA会長)	て ほ えつ こ 手 穂 悦 子	R2新
10	名張市内県立学校PTA 代表 (名張青峰高等学校PTA会長)	あお やま ひろ ひさ 青 山 浩 久	R2新
11 市教委教育長 (2名)	伊賀市教育委員会 教育長	たに ぐち しゅう いち 谷 口 修 一	継続
12	名張市教育委員会 教育長	にし やま よし かず 西 山 嘉 一	R2新
13 小中学校長代表 (2名)	伊賀市小中学校長会 代表 (伊賀市立崇広中学校 校長)	ます だ ひろし 増 田 博	継続
14	名張市小中学校長会 代表 (名張市立桔梗が丘中学校 校長)	にし やま しょう ご 西 山 尚 吾	継続
15 教員代表 (2名)	小中学校教員 代表 (名張市立北中学校 教諭)	はま だ ひろ ゆき 濱 田 博 之	継続
16	高等学校教員 代表 (伊賀白鳳高等学校 教諭)	おお た まさ ゆき 太 田 昌 幸	R2新
17	名張高等学校 校長	なか やま たか ゆき 中 山 隆 之	継続
18 県立学校長代表 (3名)	伊賀白鳳高等学校 校長	とく だ よし み 徳 田 嘉 美	継続
19	名張青峰高等学校 校長	あか つか ひさ お 赤 塚 久 生	R2新

計19名

伊賀地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 県立高等学校の活性化を推進し、地域社会における高等学校の特色化、魅力化を図り、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するために、伊賀地域高等学校活性化推進協議会（以下、協議会という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に協議する。

- (1) 今後の伊賀地域全体における県立高等学校の在り方に関すること
- (2) 施設・設備に関すること
- (3) 県立高等学校活性化推進に資すること
- (4) その他検討を要すること

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成17年7月21日から施行する。

附 則

この要綱は平成19年5月18日から施行する。

附 則

この要綱は平成19年10月2日から施行する。

附 則

この要綱は平成23年1月17日から施行する。

附 則

この要綱は平成23年8月29日から施行する。

附 則

この要綱は平成24年7月10日から施行する。

附 則

この要綱は平成29年9月4日から施行する。

これまでの協議について

1 平成24年度までの協議

- (1) 中学校卒業者数の減少に対応するため、平成16年度から協議会を設置し、県立高校のあり方について検討を進め、平成18年9月にそれまでの協議を総括しました。【参考資料1】
- 伊賀市内の専門高校3校を統合して、スケールメリットを生かして学校の活性化を図り、子どもたちの多様なニーズに対応した教育を提供することや、地域の人材育成や産業の発展に寄与することを期待し、新総合専門高校を設置することをとりまとめた。(⇒平成21年4月、伊賀白鳳高校開校)
 - 普通科高校の再編及びあけぼの学園高校の再編についても協議を行ったが、それぞれ賛否両論の意見が出された。
 - 少子化が進む平成27～33年度頃には伊賀地域の県立高校は4校程度となることをイメージ化した。
- (2) 少子化が進行することを見据え、平成22年度に協議会を再開し、当地域の県立高校のあり方について検討を進めました。【参考資料2・3】
- 平成24年度までの検討の結果、平成28年4月に名張桔梗丘高校と名張西高校を統合して普通科をベースとした新しい高校を設置し、両校の良さを継承・発展させるとともに、広い視野とコミュニケーションスキルを身につけ、地域や世界で活躍できる人材を育成すること等を協議のまとめ(平成25年3月)とした。(⇒平成28年4月、名張青峰高校開校)
 - 「再編活性化基本計画」では、1学年3～8学級を適正規模としているが、伊賀地域においては学校運営の観点から、6学級を大きく上回ったり下回ったりしない規模が適当と考えられる。3～4学級では活性化は難しい。
 - あけぼの学園高校は、2学級を設置のコンセプトとしており、小規模校のメリットを生かした多様な生徒へのきめ細かな指導により成果をあげている。このことから、存続を求める声が多いといった意見が出された。

2 平成25・26年度の協議【参考資料4】

- (1) 地域全体の学科の適正な配置について、中学校卒業者数の推移予測や中学生の進路状況など、当地域の県立高校をとりまく状況をふまえて協議しました。以下は、主な意見です。
- 平成27～33年度頃に伊賀地域の県立高校が4校になるというイメージが示されているが、本当に4校になってよいのかをよく考えて議論すべきである。
 - 当地域は普通科への志向が強いという意見があるが、地域のニーズを分析したうえで、普通科や総合学科等をどうしていけばよいか考えなければならない。
- (2) 伊賀地域における中高一貫教育の実施について、そのメリット・デメリットや全国の事例等を踏まえて協議を行いました。
- 「ゆとり」をもって学ぶことができる等の大きな利点がある一方で、少子化が進む中で、当地域の小中学校に与える影響の大きさが心配される等の課題があることから、新たに中高一貫教育校を設置することは難しいと結論づけました。

- (3) 特別な支援を必要とする子どもたちの県立高校への受け入れと支援について、現状や課題を踏まえて協議を行い、これ以降も引き続き、協議を進めることとしました。

3 平成27年度以降の協議

- (1) 特別な支援を必要とする子どもたちの県立高校への受け入れと支援について、引き続き協議し、進めるべき取組について、「特別な支援を必要とする子どもたちの県立高等学校への受け入れと支援について」（平成28年3月）としてとりまとめました。以下は主な事項です。
- 「学び直し」の内容を扱う科目を含め、多様な科目の設置等、教育課程を工夫
 - すべての生徒にとって「わかる授業づくり」に向けた教科指導の工夫
 - 教職員の指導スキルの向上と学校全体としての支援体制の充実
 - 確実な支援情報の引継と一貫した支援に向けた連携体制の充実
- (2) 地域における学科の適正な配置の観点から、専門学科の学科・コース、総合学科の系列について、協議を行いました。
- 「土木・建築等を学ぶことができる学科・系列がないので、ニーズを検証したうえで、学科等の見直しも検討していく必要がある。」という意見（平成27年度第3回協議会）が出された。
 - 地域の中中学生や産業界のニーズを把握するためのアンケート調査をふまえ、学科・コース・系列について協議を行い、建築・土木コースの設置について、学校と県教育委員会で検討し進めていくことを確認（平成29年度第1回協議会）した。（⇒平成31年4月、伊賀白鳳高校に建築デザイン科設置）
- (3) 伊賀地域の県立学校を志望する地域内の中学生が減少傾向にあることから、学校の活性化・魅力化について協議しました。主な意見は次のとおりです。
- 子どもたちのニーズをふまえれば、行きたい学校が地元にあるということが大切である。
 - 地域の高校は多様な学科・コースの設置によって魅力が増した印象はある。保護者の視点では、伊賀市と名張市の行き来はできれば避けたいので、現在の5校を維持して欲しい。
 - 生徒数の減少が進んでも生徒のニーズは多様化している。生徒のニーズに幅広く応える学校の環境づくりに地元企業からの支援が大切である。
 - 学校と地域が連携した学習活動を促進するためには、学校と地域をつなぐコーディネーターが必要であり、町づくりに関わる地域の人材がその役割を担うことができればと思う。
 - 県立高校が地域からさらに支持されるためには、中高の連携による取組の成果などについての情報発信を強化する必要がある。
 - 伊賀地域の県立高校の学習内容や特色は、以前に比べて中学生にわかりやすく伝わっており、それぞれが憧れや魅力を感じて地元の高校を志望している。在学する高校生が、自分の高校の魅力を伝えれば、中学生もより興味を持って聴くことができ、学校の魅力や楽しさが伝わる。
 - 学校が良くなっても通学の不便さから生徒が集まらないということにならないよう、地域や行政が通学状況の改善に対して先手を打つ必要がある。

令和元年度の協議について

第 1 回

- 1 日時 令和元年 10 月 9 日(水) 19 時 00 分から 21 時 20 分まで
- 2 場所 三重県伊賀庁舎 7 階 大会議室
- 3 概要

これまでの協議会での協議や伊賀地域での再編統合の経緯を共有し、中学校卒業生数の減少や、当地域を取り巻く状況や環境の変化をふまえ、県立高校のあり方について協議しました。今後も引き続き協議を進め、令和 2 年度末（令和 3 年 3 月）を目途に、協議のまとめを行うこととしました。

主な意見は次のとおりです。

《伊賀地域を取り巻く状況について》

- 伊賀地域の中学生が高校に進学する際に、北部・南部の行き来が少なくなってきたことについて、通学経費の負担が大きいことや鉄道の接続の悪さが要因として考えられる。
- 名張市でも、地元の学校に行きたい傾向が高まっており、特に、名張高校に進学する子どもたちの多くは、地元で就職し地域で活躍したいという思いを持っている。
- 名張高校は地元の子どもたちの多くが行きたい学校であり、学級減となったのは非常に残念である。次年度での見直しをお願いしたい。
- 伊賀市内には中学校が 10 校あるが、それぞれの学校から通学している高校は、おのずと限られている現状を見ると、進路選択で最も重要な要因は「通学」であるといえる。
- 定時制進学者は、全国的には減少しているが、伊賀地域は増加傾向にある。これらの子どもたちのニーズや、外国にルーツのある日本語指導が必要な子どもたちの進路先についても議論が必要である。

《今後の学校のあり方について》

- 少子化は全国的な課題で、突き詰めると地域の存続がかかっている。中学校卒業生数の減少にあわせる形で、定員を減らすことが結果的に進学者の減少につながっている。1 学年 4 学級以下の学校規模では活性化が難しいという議論が以前にもあったが、そこに向かうような施策でよいのか。
- 中学生のニーズに応えるためには、地元の活性化の視点もふまえて、高校の規模として 5 学級が必要である。
- 平成 18 年 9 月の協議会のまとめにおいて、平成 27 年度から平成 33（令和 3）年度の頃には、地域の県立高校は 4 校に統合されているイメージが出されていることをふまえ、今後 4 校に再編していく方向を具体的に議論すべきである。
- 学級数を減少されて規模が小さくなると、魅力ある学校を作っていくことが難しくなる。

- 学級減のもとでも、高校での教育改革を追い風にして、活気を失わないよう、地域の方々の協力を得ながら取り組んでいく必要がある。北部・南部間の進学者の減少など、伊賀地域の中での通学も難しくなっている状況をふまえると、北部、南部を分けて考えることも必要ではないか。
- 伊賀地域のそれぞれの学校が持つ役割を考え議論することが大切である。伊賀地域全体として地域が学校をどう支えていくかということも大きな視点として議論して欲しい。
- 環境の変化に応じて、今後は、北部、南部それぞれのエリアでの学校のあり方を考えるという視点が求められるのではないか。一方で、外国にルーツのある子どもたちや特別な支援を必要とする子どもたちの学習支援については、伊賀地域全体で各校が担う役割を考えることが必要である。
- 行きたい学校が通えるところにあるかどうかという視点からすると、北部は、南部に比べて選択肢が少ないと思う。少なくとも、北部においては、現在の学科・コースを維持することが望ましい。伊賀地域の県立高校数も現在の5校を保つべきである。
- この地域は、過去に2度の再編統合を経験している。みんなで考え痛みを分かち合う中で、未来の子どもたちのためにより良いあり方をつくっていくことが求められている。

《学校の活性化について》

- 最も大きなニーズは高校の立地の良さや通学手段であり、その次に学校の特色や魅力が求められていると感じた。住んでいる場所によって差が生じるのが交通費なので、それをカバーし合える仕組みがあるとよい。
- 通学にかかる保護者の負担を軽減するために、行政が補助できないか。また、それぞれの学校が特色を生かして魅力をPRすることで他府県からも生徒を呼び込めれば、地域内からの進学者も増えるのではないか。
- 伊賀白鳳高校に新たに建築デザイン科が設置されたことを知った。学校の魅力化やPRに期待する。
- 各学校の取組について、より低学年を対象にPRすることで、子どもたちの選択の幅を広げることにつながるのではないか。

《その他》

- 1学級の定員を40人より小さくすることで、多少、少子化が進んでも学級数を維持でき、学科等の選択肢も保つことができる。
- 学級減は公立と私立の双方が担うべきであり、県立高校の定員だけが減らされていることには納得がいかない。

第2回

開催中止

学校別活性化協議会の取組状況

(令和 2 年 8 月 1 日現在)

学校名	あけぼの学園高校
目指す学校像	「強く明るく真心で」を校訓とし、一人ひとりが“自信と誇り”を持ち、地域に貢献し地域から信頼される学校
活性化の方向性	<p>①伊賀地域唯一の小規模校としての特徴を生かし、丁寧で親身な指導を受けることができ、生徒が安心して学べる学校づくりを進めます。</p> <p>②総合学科としての特徴を生かし、生徒一人ひとりの個性やニーズ、自主性を大切にされた特色ある実践的な教育を展開し、“自信と誇り”を持ち、地域で活躍できる人材を育てます。</p> <p>③校内外における取組を幅広く情報発信し、地域に根ざし地域から信頼される学校づくりを推進します。</p>
<p>活性化の主な取組</p> <p>丸囲み数字は、活性化の方向性の項目番号に対応</p> <p>矢印の後の○△×は取組の達成度を示す</p> <p>○…達成</p> <p>△…一部達成</p> <p>×…未達成</p>	<p>《これまでの取組と達成度》</p> <p>①基礎学力の定着、学びの保障</p> <p>(ア) 少人数によるきめ細やかな指導→○英数国において2クラスを3～4講座に分割。</p> <p>(イ) 基礎力診断テストの分析と対応→△学力の分析と個々への必要な支援に引き続き取り組む。ワンウィークトライアル(教材)を英数の授業で活用して学力向上を目指す。</p> <p>(ウ) 外国にルーツを持つ生徒への日本語指導→△今年度1年次から習熟度別学習での指導を開始。現在2名が学習中。</p> <p>(エ) ICTを活用した授業→△一部の教科で実施。校内LAN、電子黒板付きプロジェクター、生徒用端末40台が今年度中に整備予定。</p> <p>(オ) 定期テスト前補習→○全教科で実施。</p> <p>(カ) 学習意欲を高める授業改善→△授業規律の徹底(ベル着、机上の整理等)に向け取り組んでいる。ルーブリック評価、アクティブラーニング、学び合い活動などを検討中。</p> <p>①丁寧で親身な指導、安心できる学校作り</p> <p>(ア) 家庭や中学校等との連携→○全1年次生への家庭訪問(ただし、今年度は実施を見送る)、中学校や関係機関への定期的な訪問。</p> <p>(イ) 教育相談、生徒指導の充実→○ガイダンス面談、進路面談などを定期的実施、スクールカウンセラー、就職支援員との連携強化、全教員による毎朝の登校指導を実施。</p> <p>②一人ひとりの個性やニーズを大切に実践的教育</p> <p>(ア) 総合学科の特色を生かした教育→○多様な選択科目、新たな科目の導入を検討中。</p> <p>(イ) 各系列の魅力化→△美容服飾系列の特色ある取組を進めるとともに、他の系列の魅力化を検討中。</p> <p>②地域連携と人材育成</p> <p>(ア) 地域連携→○地域と連携した美容商品の開発と販売活動。</p> <p>(イ) 地域理解、地域貢献→△地域課題解決学習、フィールドワークを実施し、地域を知り地域に学ぶ学習を展開。パンの商品開発などは地域貢献するまでには至らず。</p> <p>(ウ) 出前授業、交流授業→○美容出前授業、お菓子作り交流会を実施。</p> <p>(エ) 人材育成→△インターンシップ、卒業生の講話、IGABITO 育成事業などの充実が必要。</p> <p>③情報発信、生徒や学校の見える化</p> <p>(ア) 学習の成果の発信→○成果発表会、公開授業の実施。</p> <p>(イ) 学校の取組の発信→○報道機関への積極的な情報提供、ホームページで情報発信。</p> <p>(ウ) 中学生・保護者への進路情報の発信→○高校生活入門講座、進路フェスタ、学校説明会、ポスター掲示等。</p> <p>(エ) 地域の人々との交流→○地域行事への参加、地域の人々との生の触合い。</p>

成果	<p>1 少人数教育やきめ細やかで丁寧な指導は、意欲の向上や安心感を生み出し、本校への満足度につながっている。生徒アンケート→丁寧な指導をしている 82%、授業に前向きに取り組んでいる 91%、学校生活に満足している 76% ※令和2年7月実施の生徒アンケートより（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合）</p> <p>2 実践的な教育や校外外での人との関わりは、自己肯定感や自信と誇りを育み、身だしなみや挨拶、マナーの向上などにつながっている。生徒アンケート→身だしなみを整えている 88%、挨拶している 80%、マナーを守っている 84% ※同上（同上）</p> <p>3 情報発信や地域連携、地域交流の取組により、地域の生徒や学校に対する理解が進み、中学生の安定した志願状況につながっている。</p>
今後の取組	<p>《R2～3年度の重点的な取組》</p> <p>1 安心して学べる学校（学びの保障、一人ひとりが生き生きと） →学力の分析と指導の一体化、ICTを活用した授業《改革》、外国にルーツを持つ生徒の日本語指導、特別な支援が必要な生徒への指導の研究</p> <p>2 必要とされる学校（未来につながる魅力ある取組、人材育成） →つきたい力の明確化と指導の一体化、系列の見直し《改革》、地域理解・地域貢献できる人材の育成</p> <p>3 選ばれる学校（情報発信の充実、新たな地域連携の推進） →学校HPでの学校紹介動画および「あけぼの学園日誌」の公開、地域連携事業の新たな取組《改革》</p>

あけぼの学園高校の過去10年間の選抜状況

入試年度	入学定員	12月進路希望調査	前期選抜（定員40）			後期選抜				再募集			入学者数	欠員	備考
			志願者数	志願倍率	内定者数	定員	志願者数	志願倍率	合格者数	定員	志願者数	合格者数			
H23	80	72	71	1.78	44	36	48	1.33	36	—	—	—	80	0	
H24	80	88	88	2.20	44	36	40	1.11	36	—	—	—	80	0	
H25	80	77	75	1.88	44	36	48	1.33	36	—	—	—	80	0	
H26	80	68	67	1.68	45	35	49	1.40	35	—	—	—	80	0	特別選抜1名合格
H27	80	91	92	2.30	44	36	38	1.06	36	—	—	—	80	0	
H28	80	99	99	2.48	45	35	52	1.49	35	—	—	—	80	0	特別選抜1名合格
H29	80	58	58	1.45	44	36	31	0.86	30	6	9	6	80	0	
H30	80	84	80	2.00	47	33	40	1.21	33	—	—	—	80	0	特別選抜3名合格
H31	80	74	73	1.83	45	35	39	1.11	35	—	—	—	79	1	特別選抜1名合格
R2	80	86	86	2.15	44	36	37	1.03	34	2	1	1	79	1	

区分	進路先	平成30年3月卒業		平成31年3月卒業		令和2年3月卒業	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
伊賀地域 県立高校	上野	271	18.5	270	19.1	264	19.2
	伊賀白鳳	264	18.0	259	18.3	252	18.3
	あけぼの学園	56	3.8	60	4.2	67	4.9
	名張	175	11.9	177	12.5	145	10.5
	名張青峰	267	18.2	258	18.2	250	18.2
	小計	1033	70.4	1024	72.3	978	71.0
他地域 県立高校	津	47	3.2	52	3.7	48	3.5
	津西	30	2.0	30	2.1	27	2.0
	上記以外 ※1	72	4.9	70	4.9	74	5.4
	小計	149	10.1	152	10.7	149	10.8
私立 全日制	鈴鹿	3	0.2	1	0.1	1	0.1
	高田	5	0.3	9	0.6	5	0.4
	三重	23	1.6	12	0.8	17	1.2
	桜丘（日生第一）	6	0.4	6	0.4	5	0.4
	上記以外 ※2	7	0.5	3	0.2	9	0.7
	小計	44	3.0	31	2.2	37	2.7
県外 全日制	国公立	9	0.6	10	0.7	10	0.7
	私立	60	4.1	52	3.7	51	3.7
	小計	69	4.7	62	4.4	61	4.4
県立 定時制 通信制	上野(定)	8	0.5	18	1.3	5	0.4
	名張(定)	8	0.5	10	0.7	10	0.7
	上記以外の定・通	4	0.3	2	0.1	3	0.2
	小計	20	1.4	30	2.1	18	1.3
県外公立 定時制 通信制	山辺高校山添分校	12	0.8	5	0.4	7	0.5
	上記以外の定・通	0	0.0	2	0.1	1	0.1
	小計	12	0.8	7	0.5	8	0.6
私立 定時制 通信制 (広域, 県外 含む)	英心(通)	12	0.8	11	0.8	20	1.5
	徳風(通)	3	0.2	8	0.6	6	0.4
	上記以外 ※3	28	1.9	23	1.6	27	2.0
	小計	43	2.9	42	3.0	53	3.8
高等専門 学校	鈴鹿高専	5	0.3	4	0.3	6	0.4
	鳥羽商船	4	0.3	2	0.1	2	0.1
	近大高専	44	3.0	40	2.8	34	2.5
	県外高専	6	0.4	2	0.1	4	0.3
	小計	59	4.0	48	3.4	46	3.3
特別支援 学校	伊賀つばさ学園	12	0.8	5	0.4	5	0.4
	特別支援聖母の家	2	0.1	1	0.1	0	0.0
	県外特別支援	1	0.1	0	0.0	0	0.0
	小計	15	1.0	6	0.4	5	0.4
その他	就職	4	0.3	8	0.6	5	0.4
	上記以外 ※4	20	1.4	7	0.5	17	1.2
	小計	24	1.6	15	1.1	22	1.6
公立中学校卒業生数		1,468	100.0	1,417	100.0	1,377	100.0

令和2年3月卒業生

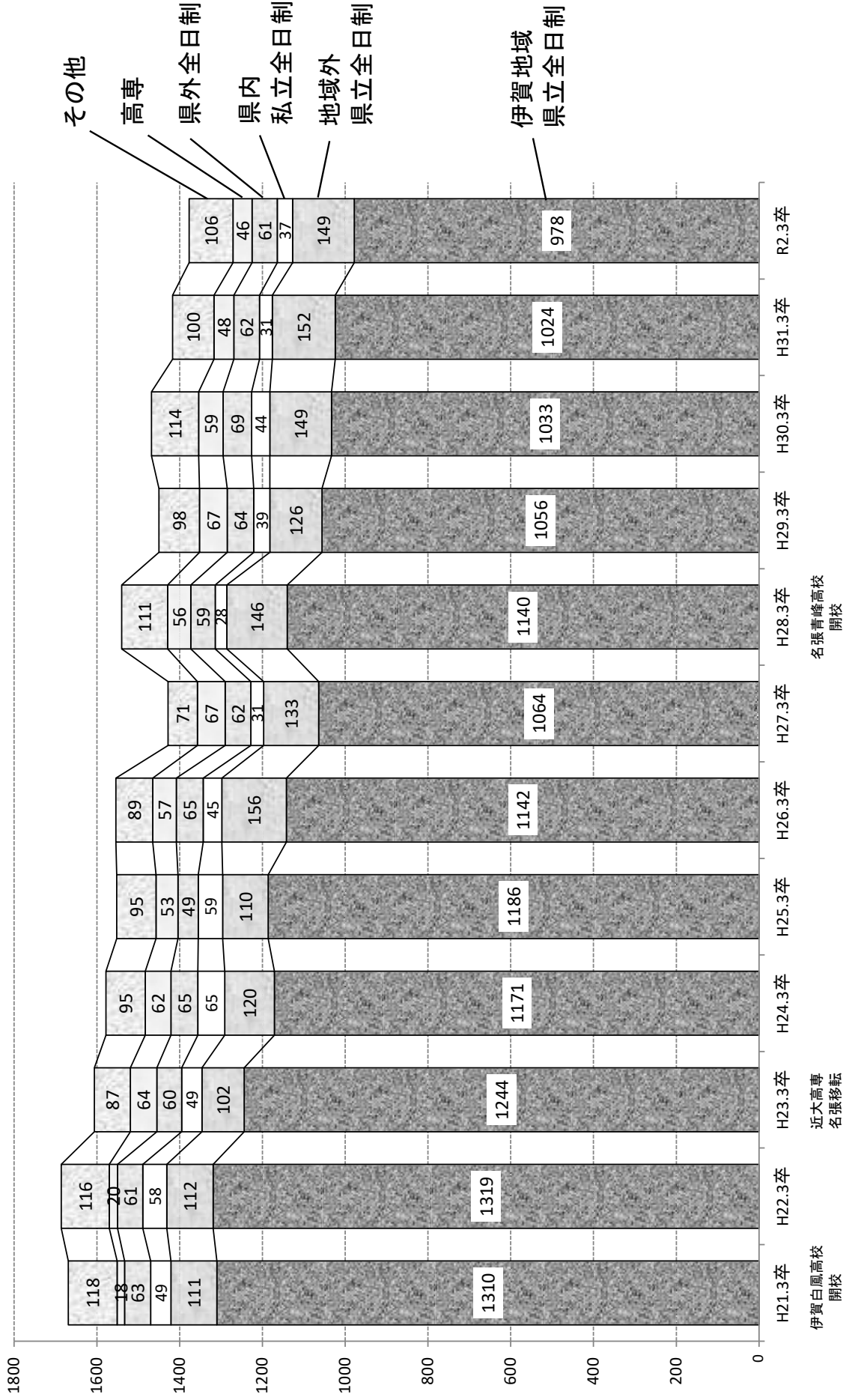
- ※1 桑名1、桑名西1、四日市3、四日市西1、四日市四郷1、四日市工業1、
四日市中央工業4、四日市商業2、飯野2、白子3、稲生1、亀山13、津商業5、
津東4、津工業5、久居3、久居農林2、白山6、松阪4、松阪工業3、飯南1、
相可3、昴学園4、宇治山田商業1の計74人
- ※2 海星3、皇學館5、伊勢学園1の計9人
- ※3 県内（定・通）2、県外（定・通）25の計27人
- ※4 専修・各種学校・職業訓練校等7、他（進学待機・求職中・無業等）10の計17人

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況（令和2年3月卒）

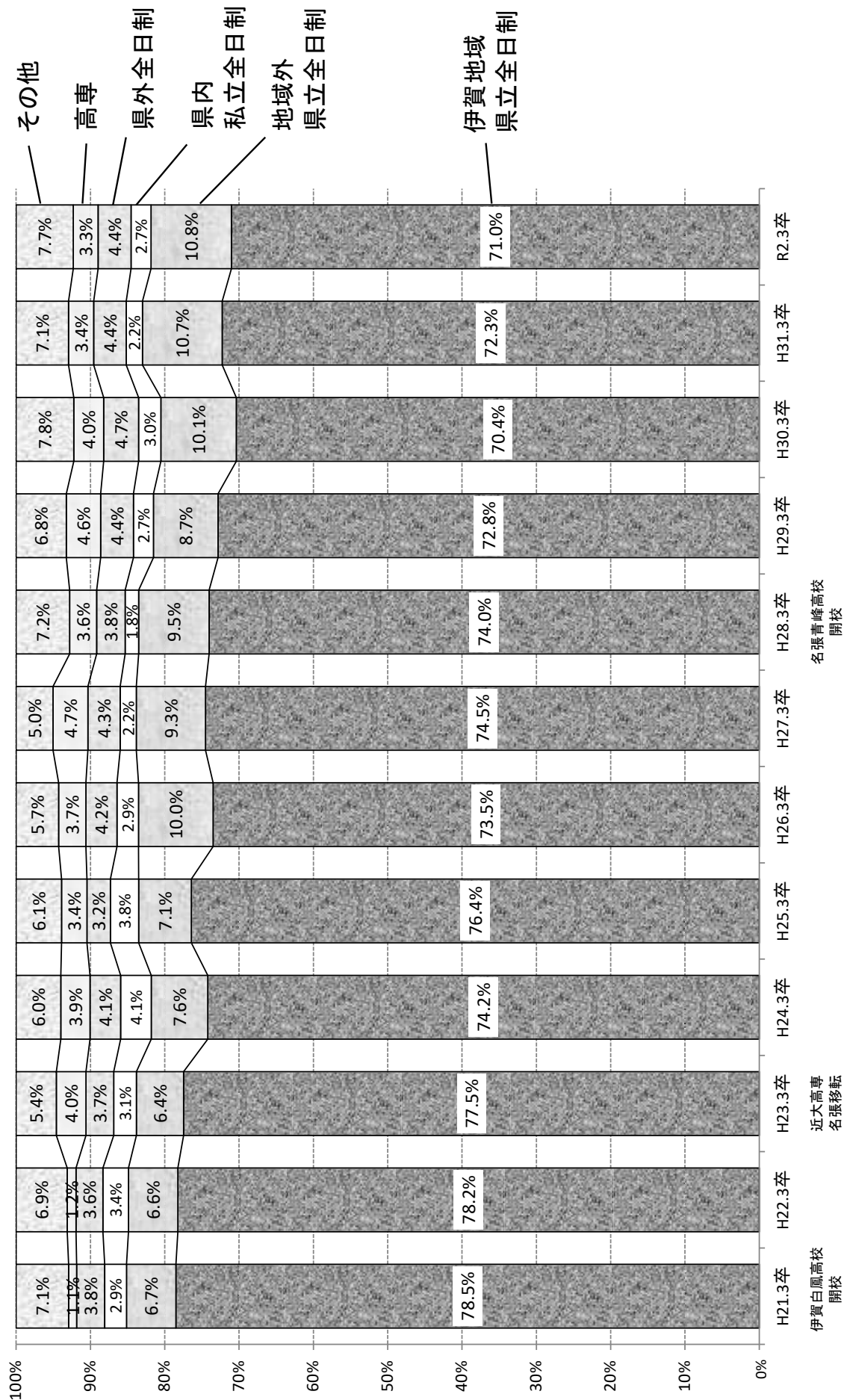
資料4②

区分	進路先	伊賀市		名張市		伊賀地域合計	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
伊賀地域 県立 全日制	上野	173	23.5	91	14.2	264	19.2
	伊賀白鳳	214	29.1	38	5.9	252	18.3
	あけぼの学園	50	6.8	17	2.6	67	4.9
	名張	51	6.9	94	14.6	145	10.5
	名張青峰	83	11.3	167	26.0	250	18.2
	小計	571	77.7	407	63.4	978	71.0
他地域 県立 全日制	津	3	0.4	45	7.0	48	3.5
	津西	10	1.4	17	2.6	27	2.0
	上記以外 ※1	44	6.0	30	4.7	74	5.4
	小計	57	7.8	92	14.3	149	10.8
私立 全日制	鈴鹿	1	0.1	0	0.0	1	0.1
	高田	2	0.3	3	0.5	5	0.4
	三重	2	0.3	15	2.3	17	1.2
	桜丘（日生第一）	1	0.1	4	0.6	5	0.4
	上記以外 ※2	4	0.5	5	0.8	9	0.7
	小計	10	1.4	27	4.2	37	2.7
県外 全日制	国公立	6	0.8	4	0.6	10	0.7
	私立	22	3.0	29	4.5	51	3.7
	小計	28	3.8	33	5.1	61	4.4
県立 定時制 通信制	上野(定)	5	0.7	0	0.0	5	0.4
	名張(定)	2	0.3	8	1.2	10	0.7
	上記以外の定・通	3	0.4	0	0.0	3	0.2
	小計	10	1.4	8	1.2	18	1.3
県外公立 定時制 通信制	山辺高校山添分校	5	0.7	2	0.3	7	0.5
	上記以外の定・通	1	0.1	0	0.0	1	0.1
	小計	6	0.8	2	0.3	8	0.6
私立 定時制 通信制 (広域, 県外 含む)	英心(通)	1	0.1	19	3.0	20	1.5
	徳風(通)	4	0.5	2	0.3	6	0.4
	上記以外 ※3	10	1.4	17	2.6	27	2.0
	小計	15	2.0	38	5.9	53	3.8
高等専門 学校	鈴鹿高専	5	0.7	1	0.2	6	0.4
	鳥羽商船	1	0.1	1	0.2	2	0.1
	近大高専	13	1.8	21	3.3	34	2.5
	県外高専	1	0.1	3	0.5	4	0.3
	小計	20	2.7	26	4.0	46	3.3
特別支援 学校	伊賀つばさ学園	2	0.3	3	0.5	5	0.4
	特別支援聖母の家	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	県外特別支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小計	2	0.3	3	0.5	5	0.4
その他	就職	3	0.4	2	0.3	5	0.4
	上記以外 ※4	13	1.8	4	0.6	17	1.2
	小計	16	2.2	6	0.9	22	1.6
公立中学校卒業者数		735	100.0	642	100.0	1,377	100.0

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況の推移【人数】



伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況の推移【割合】



名張青峰高校
開校

近大高専
名張移転

伊賀白鳳高校
開校

伊賀地域の県立高等学校（全日制）の令和2年度入学者選抜の状況

資料5

高校名	学科・コース名	R2 募集定員	R1.12.13 希望者数	前期選抜等			後期選抜				再募集			合格者 総数	入学者数	欠員
				募集人数	志願者数	合格 内定者数	募集人数	志願者数 (最終)	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
上野	普通	240	196				240	201	0.84	227	13	4	4	231	231	9
	理数	40	70	20	67	20	20	49	2.45	20				40	40	0
	計	280	266	20	67	20	260	250	0.96	247	13	4	4	271	271	9
あけぼの学園	総合学科	80	86	40	86	44	36	37	1.03	34	2	1	1	79	79	1
	機械	40	34	20	32	22										
伊賀白鳳	電子機械	40	35	20	37	22										
	建築デザイン	40	51	20	51	22										
	生物資源	40	37	20	36	22	126	113	0.90	110	16	6	5	269	268	12
	フードシステム	40	42	20	43	22										
	経営	40	27	20	27	22										
	ヒューマンサービス	40	39	20	41	22										
名張	計	280	265	140	267	154	126	113	0.90	110	16	6	5	269	268	12
	総合学科	160	153	80	162	88	72	83	1.15	72				160	160	0
名張青峰	普通	240	220	72	217	72	168	149	0.89	160	8	0	0	232	232	8
	文理探究コース	40	42	20	44	20	20	28	1.40	17	3	0	0	37	37	3
	計	280	262	92	261	92	188	177	0.94	177	11	0	0	269	269	11
伊賀地域計		1,080	1,032	376	845	398	682	660		640	42	11	10	1,048	1,047	33

※「R1.12.13希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施された進学希望状況調査(R2.1.18公表)による。

※あけぼの学園の上段は前期選抜、下段は特別選抜

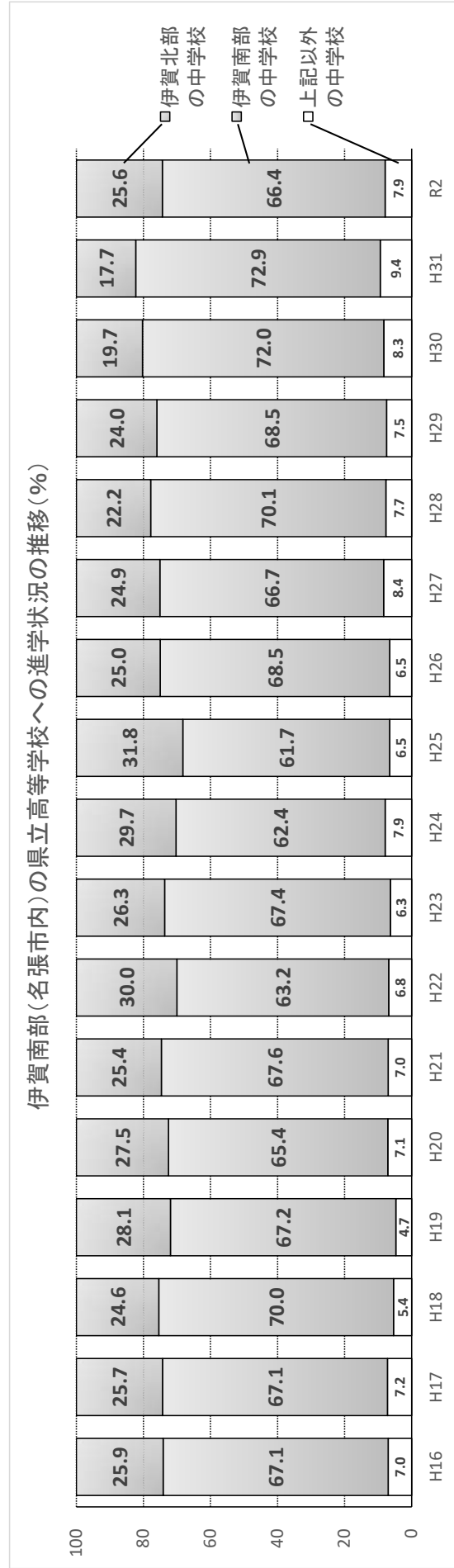
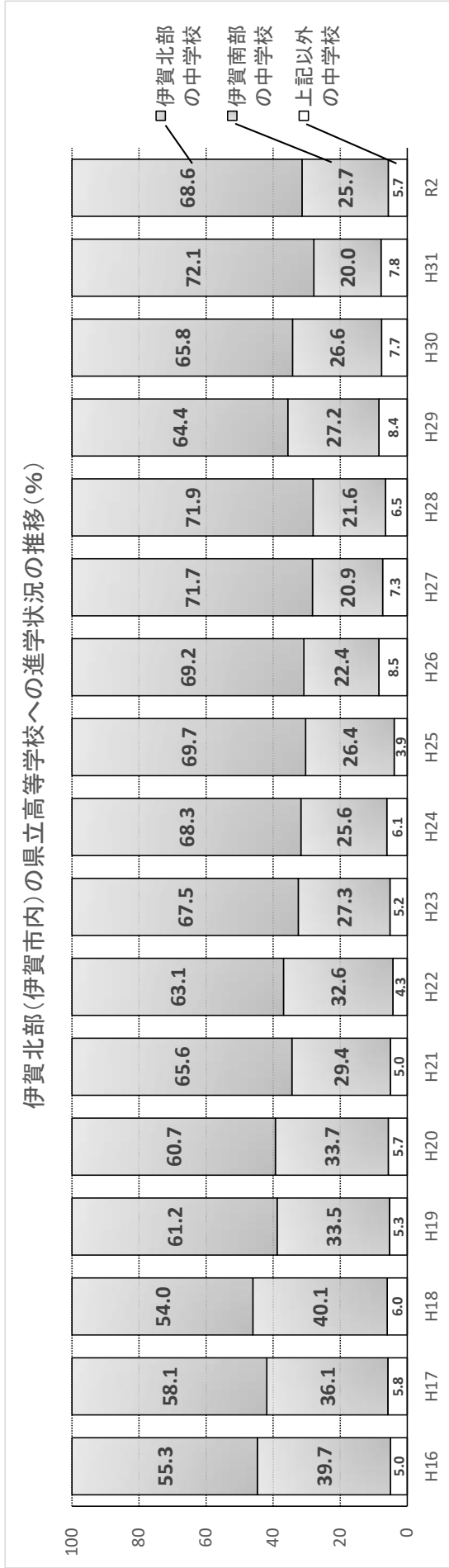
各高等学校の入学者の出身中学校と卒業者の進路状況

設置学科等 (R2募集定員)			上野	あけぼの 学園	伊賀白鳳	名張	名張青峰	
			普通(240) 理数(40)	総合(80)	工業・農業 商業・福祉 (280)くくり募集	総合(160)	普通(240) 文理探究(40)	
R2年度 の入学生の 出身中学校	伊賀北部 の中学校	人	167	45	211	40	71	
		%	61.6%	57.0%	78.7%	25.0%	26.4%	
	伊賀南部 の中学校	人	97	22	40	105	180	
		%	35.8%	27.8%	14.9%	65.6%	66.9%	
	上記以外の 県内中学校	人	5	11	12	6	15	
		%	1.8%	13.9%	4.5%	3.8%	5.6%	
	県外の中学校 (奈良県等)	人	2	1	5	9	3	
		%	0.7%	1.3%	1.9%	5.6%	1.1%	
	入学者数計		人	271	79	268	160	269
	R元年度 卒業生の 進路状況	4年制大学 (大学校含む)	人	234	6	21	40	170
%			84.5%	8.8%	8.1%	20.7%	56.5%	
短期大学 (高専含む)		人	9	2	15	18	19	
		%	3.2%	2.9%	5.8%	9.3%	6.3%	
専修・各種学校 等		人	14	10	49	63	82	
		%	5.1%	14.7%	19.0%	32.6%	27.2%	
就職		人	2	49	171	64	16	
		%	0.7%	72.1%	66.3%	33.2%	5.3%	
その他 (進学待機を含む)		人	18	1	2	8	14	
		%	6.5%	1.5%	0.8%	4.1%	4.7%	
卒業生数計		人	277	68	258	193	301	

※ 「伊賀北部の中学校」は伊賀市の中学校から青山中学校を除き、「伊賀南部の中学校」は名張市の中学校に青山中学校を加える。

資料 7

伊賀地域の県立高等学校への進学状況の推移【北部・南部別】



※ 「伊賀北部の中学校」は伊賀市の中学校から青山中学校を除き、「伊賀南部の中学校」は名張市の中学校に青山中学校を加える。

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

資料8①

令和2年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月	H 29.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 現中3	R 4.3 現中2	R 5.3 現中1	R 6.3 現小6	R 7.3 現小5	R 8.3 現小4	R 9.3 現小3	R 10.3 現小2	R 11.3 現小1
伊賀市	841	829	829	807	768	788	738	740	689	685	701	665	642
前年度対比		-12	0	-22	-39	20	-50	2	-51	-4	16	-36	-23
R2.3対比					-39	-19	-69	-67	-118	-122	-106	-142	-165
①公立小中在籍者数	(761)	(748)	(743)	(735)	723	736	712	751	697	697	713	676	652
②私立小中在籍者数	(80)	(81)	(86)	(72)	40	26	16						
名張市	689	720	674	642	657	648	636	645	673	642	648	638	615
前年度対比		31	-46	-32	15	-9	-12	9	28	-31	6	-10	-23
R2.3対比					15	6	-6	3	31	0	6	-4	-27
伊賀地域計	1,530	1,549	1,503	1,449	1,425	1,436	1,374	1,385	1,362	1,327	1,349	1,303	1,257
前年度対比		19	-46	-54	-24	11	-62	11	-23	-35	22	-46	-46
R2.3対比					-24	-13	-75	-64	-87	-122	-100	-146	-192
①②③小中在籍者数					1,418	1,411	1,365	1,425	1,397	1,365	1,393	1,342	1,293

伊賀地域県立高校の1学年学級数	29	29	28	27	27								
() 内は入学定員の計	(1,160)	(1,160)	(1,120)	(1,080)	(1,040)								

(参考)

県内合計	H 29.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 現中3	R 4.3 現中2	R 5.3 現中1	R 6.3 現小6	R 7.3 現小5	R 8.3 現小4	R 9.3 現小3	R 10.3 現小2	R 11.3 現小1
卒業生数	17,513	17,458	16,811	16,489	15,781	16,211	16,020	15,890	15,582	15,434	15,254	14,729	14,363
前年度対比		-55	-647	-322	-708	430	-191	-130	-308	-148	-180	-525	-366
R2.3対比					-708	-278	-469	-599	-907	-1,055	-1,235	-1,760	-2,126
小中在籍者数					15,774	16,172	16,006	16,024	15,720	15,569	15,409	14,878	14,479

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)【北部・南部別】

資料 8 ②

令和2年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月	H 29.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 現中3	R 4.3 現中2	R 5.3 現中1	R 6.3 現小6	R 7.3 現小5	R 8.3 現小4	R 9.3 現小3	R 10.3 現小2	R 11.3 現小1
伊賀北部													
卒業生数	758	749	761	747	706	727	679	684	611	626	638	605	588
前年度対比		-9	12	-14	-41	21	-48	5	-73	15	12	-33	-17
R2.3対比					-41	-20	-68	-63	-136	-121	-109	-142	-159
①公立小中在籍者数	(678)	(668)	(675)	(675)	661	675	652	693	616	635	648	614	594
②私立小中在籍者数	(80)	(81)	(86)	(72)	40	26	16						
伊賀南部													
卒業生数	772	800	742	702	719	709	696	701	751	701	710	698	669
前年度対比		28	-58	-40	17	-10	-13	5	50	-50	9	-12	-29
R2.3対比					17	7	-6	-1	49	-1	8	-4	-33
③公立小中在籍者数					717	710	697	732	781	730	745	728	699
伊賀地域計													
卒業生数	1,530	1,549	1,503	1,449	1,425	1,436	1,375	1,385	1,362	1,327	1,348	1,303	1,257
前年度対比		19	-46	-54	-24	11	-61	10	-23	-35	21	-45	-46
R2.3対比					-24	-13	-74	-64	-87	-122	-101	-146	-192
①②③小中在籍者数					1,418	1,411	1,365	1,425	1,397	1,365	1,393	1,342	1,293

伊賀地域県立高校の1学年学級数	29	29	28	27	27								
() 内は入学定員の計	(1,160)	(1,160)	(1,120)	(1,080)	(1,040)								

※ 伊賀北部=伊賀市から旧青山町を除く。

※ 伊賀南部=名張市に旧青山町を加える。

(参考)

伊賀地域県立高校の1学年学級数	29	29	28	27	27								
() 内は入学定員の計	(1,160)	(1,160)	(1,120)	(1,080)	(1,040)								
伊賀北部=伊賀市から旧青山町を除く。													
伊賀南部=名張市に旧青山町を加える。													
県内合計													
卒業生数	17,513	17,458	16,811	16,489	15,781	16,211	16,020	15,890	15,582	15,434	15,254	14,729	14,363
前年度対比		-55	-647	-322	-708	430	-191	-130	-308	-148	-180	-525	-366
R2.3対比					-708	-278	-469	-599	-907	-1,055	-1,235	-1,760	-2,126
小中学校在籍者数					15,774	16,172	16,006	16,024	15,720	15,569	15,409	14,878	14,479

令和 2 年度の協議について

1 協議の進め方

予測することが困難であると言われるほど社会情勢が大きく変化する中で、教育的課題はより複雑化・多様化しています。そのような中、これからの時代を生きていく高校生にどのような力を育み、本県の高校でどのような教育を進めるべきかなど、これからの三重の高校教育のあり方について検討していく必要があります。

こうした本県の県立高校の将来像については、「三重県教育改革推進会議」を中心に議論・整理していくとともに、既存の高校教育の枠にとらわれない幅広で多様な観点・角度から調査し考察を加えるため、今年度新たに設置する「県立高等学校みらいのあり方検討委員会」において、次期「県立高等学校活性化計画」（令和 4 年度から 5 年間、以下「次期計画」）の策定も見据えながら審議します。

各地域（伊賀・伊勢志摩・紀南）に設置した高等学校活性化推進協議会においては、これまで長年にわたり、特に少子化への対応等を中心に各地域の現状認識を共有しつつ、地域特有の課題の解決に向けて協議を重ねてきました。令和 2 年度の各地域の協議会においては、教育に関する国の動向を踏まえながら、次期計画の策定を見据えて、地域における高校教育及び高等学校のあり方について協議します。

2 協議の方向

- 平成 18 年 9 月の当協議会のまとめにおいては、伊賀地域の県立高校は、平成 27～33 年（令和 3 年）頃には 4 校程度となることをイメージ化しましたが、その後、地域外の高校への進学者の増加や通学事情の変化など、以前とは異なる状況が生じたため、平成 27 年 3 月の協議のまとめにおいては、「本当に 4 校になってよいのかをよく考えて議論する必要がある。」とされました。

そのような中、今後の中学校卒業生数の減少に伴い、伊賀地域の県立高校（全日制）の学級数は、令和 8 年頃には 24～25 学級程度、令和 11 年頃には 22～23 学級程度まで減少している可能性が考えられます。

- 地域全体の県立高校のあり方について、今後の中学校卒業生数の減少予測や、伊賀地域の県立高校を取り巻く状況の変化をふまえ、子どもたちや地域のニーズ、各県立高校が担う役割、学科のバランス、学校規模等の様々な観点から検討する必要があります。
- 今年度の協議は、地域の子どもたちにとって望ましい学びの実現・学校のあり方について、引き続き協議を進め、今年度末には、「協議のまとめ」を協議会としてまとめることを目指します。

3 協議会の開催予定

(1) 第 1 回協議会（9 月 14 日）

- ・伊賀地域の高等学校を取り巻く状況について
- ・伊賀地域の高等学校の今後のあり方について

- (2) 第2回協議会（10月下旬～11月上旬）
 - ・伊賀地域の高等学校の今後のあり方について
- (3) 第3回協議会（1月下旬～2月上旬）
 - ・伊賀地域の高等学校の今後のあり方について
 - ・協議のまとめ中間案について
- (4) 第4回協議会（3月中旬～3月下旬）
 - ・協議のまとめ最終案について

次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けて

